

## 令和5年度事業報告

### 1 法人の概要

#### 1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年4月1日	布施高等女学校開校
22年4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更

			家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻	廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科	廃止
22年	4月1日	健康福祉学科	を健康栄養学科に名称変更
			健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻	廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科	開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科	を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日	東大阪大学短期大学部介護福祉学科	開設
令和3年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科	を国際教養こども学科に名称変更

## 2) 設置する学校・学部・学科 (令和5年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科  
国際教養こども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科  
実践保育学科  
介護福祉学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

## 3) 当該学校・学部・学科の学生数 (令和5年5月1日現在)

学校名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	321
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	88
	実践保育学科	71
	介護福祉学科	108
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	694
東大阪大学柏原高等学校	普通科	482
東大阪大学附属幼稚園		290
合計		2,054

4) 役員の概要 (令和6年4月1日現在)

(1) 役員 理事 7人、監事 2人 (任期: 令和7年7月3日【7-1-1 除く】)

寄附行為	役職名	氏名
7-1-2	理事長	村上 靖平
7-1-2	理事	栗岡二三子
7-1-3	理事	佐伯 勇
7-1-3	理事	筒井 宣興
7-1-1	理事	吉岡真知子
7-1-2	理事	金治 延幸
7-1-3	理事	別所諭貴夫
8	監事	中道 均
8	監事	室井 博子

(2) 評議員 15人 (任期: 令和7年7月3日)

寄附行為	氏名	寄附行為	氏名
21-1-2	栗岡二三子	21-1-1	山田ゆかり
21-1-1	村上 靖平	21-1-1	森内 徹
21-1-3	妻野 京子	21-1-1	出口 和隆
21-1-3	吉岡真知子	21-1-1	新 浩幸
21-1-3	別所諭貴夫	21-1-1	小林 康行
21-1-3	西田 眞男	21-1-1	南方 孝一
21-1-3	金治 延幸	21-1-3	宮里 円香
21-1-3	三浦 常治		

5) 教職員の概要 (令和5年5月1日現在)

	教員		職員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	12	4	16
東大阪大学	22	24	16	10	72
東大阪大学短期大学部	31	34	15	3	83
東大阪大学敬愛高等学校	45	13	7	7	72
東大阪大学柏原高等学校	49	7	9	11	76
東大阪大学附属幼稚園	18	5	6	2	31
合計	165	83	65	37	350

## 2 財務の概要

### 1) 事業活動収支計算書（令和3年度から令和5年度）

（単位：千円）

（教育活動収入の部）	令和5年度	令和4年度	令和3年度
学生生徒等納付金	1,372,140	1,402,731	1,430,546
手数料	27,669	27,922	30,344
寄付金	15,543	22,061	16,308
経常費等補助金	800,860	813,968	781,869
付随事業収入	98,401	118,739	99,980
雑収入	72,253	49,758	32,870
教育活動収入計	2,386,866	2,435,180	2,391,916
（教育活動支出の部）			
人件費	1,499,017	1,546,107	1,487,039
教育研究経費	914,229	948,685	1,006,385
管理経費	414,394	431,251	385,609
徴収不能額等	7,200	5,726	2,539
教育活動支出計	2,834,840	2,931,770	2,881,572
教育活動収支差額	△447, 974	△496,590	△489,656
（教育活動外収入）			
受取利息・配当金	17,878	49,917	46,408
その他の教育活動外収入	-	-	-
教育活動外収入計	17,878	49,917	46,408
（教育活動外支出）			
借入金利息	21,825	21,121	22,712
その他の教育活動外支出	-	-	-
教育活動外支出計	21,825	21,121	22,712
教育活動外収支差額	△3,945	28,797	23,696
経常収支差額	△451,920	△467,794	△465,959
（特別収入）			
資産売却差額	20	987	-
その他の特別収入	61,026	3,325	4,738
特別収入計	61,046	4,313	4,738
（特別支出）			
資産処分差額	221	732	311
その他の特別支出	2,744	703	113

特別支出計	2,965	424	37,640
特別収支差額	58,081	4,314	60,288
基本金組入前当年度収支差額	△393,840	△461,646	△133,415
基本金組入額合計	△299,271	△212,095	△428,518
当年度収支差額	△758,400	△673,741	△561,933
前年度繰越収支差額	△5,789,081	△4,475,963	△3,914,030
基本金取崩額	-	-	-
翌年度繰越収支差額	△6,547,481	△5,149,704	△4,475,963
事業活動収入計	2,465,790	2,443,062	2,629,000
事業活動支出計	2,859,630	2,904,708	2,762,415

## 2) 貸借対照表 (令和3年度から令和5年度)

(単位：千円)

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
固定資産	12,224,520	12,448,173	13,043,524
流動資産	339,033	649,742	920,891
資産の部合計	12,563,553	13,097,916	13,964,415
固定負債	1,784,285	1,929,623	2,089,363
流動負債	698,137	693,322	935,164
負債の部合計	2,482,422	2,622,944	3,024,527
基本金の部合計	16,628,613	16,264,052	16,089,592
繰越収支差額の部合計	△6,547,481	△5,789,081	△5,149,704
負債及び純資産の部合計	12,563,553	13,097,916	13,964,415

## 3) 財務比率 (令和3年度から令和5年度)

(単位：%)

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
人件費比率	62.3	62.2	61.0
人件費依存率	109.2	110.2	103.9
教育研究経費比率	38.0	38.2	41.3
事業活動収支差額比率	△16.0	△18.7	△18.9

## 2 令和5年度事業計画における進捗状況等

令和5年度は、断続的に新型コロナウイルスやインフルエンザ等による学年閉鎖や学級閉鎖はあったが、学校行事はすべて実施することができ、多くの保護者に参加してもらうことができた。

入学者数増に向けて、様々な改革・取り組みを実施してきたが、結果として令和6年度入学者数は、昨年度より微増の173名（留学生含む）にとどまった。

### 1. 入学生徒増に向けた改革を推進

生徒増に向けた改革を前半は改革推進委員会で、後半は学園で統一して設立したPT（プロジェクトチーム）を中心に、スピード感をもって推し進めた。

#### (1) 教職員の意識改革

- ・生徒募集は入試広報部だけでなく、全教職員で行う意識を根付かせるようにした。
- ・前半は改革推進委員会で、コースの再構築や男女共学も含めて、新しい選択授業、コース独自の取り組み等について検討し、実施できるところから始めた。また後半はPTを中心に、キャラクターの設定や制服・校則の見直し、HPやメタバースの活用等について検討した。

#### (2) コースの再構築

令和6年度入試より調理コース・美術コースを募集停止にしたが、キャリアアップの中で調理や美術を本格的に学べるように選択教科の時間を2時間増やして週4時間とした。他のコースについても今後検討していく。併せて、コースの名称についても、より分かりやすいものへと検討していく。

#### (3) 入試広報部の改革

校務分掌を改訂して、多くの教職員が入試広報部に関わるようにし、生徒募集は全教職員で行う意識を高めた。またオープンスクール等も多くの教職員に関わってもらうように工夫した。

## 2. 教育内容の充実

### (1) すべての生徒が夢中になって学べる授業づくり

#### ① ICT教育のさらなる充実

- ・全学年一人1台のiPadを活用して、個別最適な学びと協働的な学びを目指した。すべての授業で、知識の定着に特化した学習アプリ「Monoxer」を活用し、学習回数が一番多い生徒は、1年間で25,860回にもなった。全校生徒の平均学習回数も1万回近くになった。この数字は全国でもトップ3に入る。
- ・受験対策として導入した学習アプリ「スタディサプリ」を活用して、生徒の習熟度に応じて課題を配信出来た。また年2回行う「スタディサプリ」の到達度テストでは、3教科合計で1年生は91点から148点（57点UP）や115点から168点（53点UP）の生徒が、2年生でも89点から140点（51点UP）や54点から101点（47点UP）の生徒がいた。

- ・iPadを活用した公開授業や研究授業は、今年度はあまり実施できなかったもので、次年度は、1・2学期に必ず実施したい。

## ②主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の追求

- ・ペア学習・グループ学習等を活用し、協働的な学びを目指した。
- ・「キーノート」等プレゼンテーションアプリを活用して、自分の考えをまとめ、発表・表現する力の育成を目指した。特に国語科では、3年生で初めて卒業論文に取り組み、学年全体で発表会を実施することができた。学年全員が完成させることができ、テーマも「東大阪大学柏原高等学校はどうしたら発展するのか？」や「大阪の粉もんはなぜ有名なのか」、「片思いとは」、「高校野球の歴史～昭和・平成・令和の比較～」、「ファッションリバイバル」などバラエティーに富んでいた。生徒の達成感と満足度は高かった。

## (2) 各コースの充実

各コースの主任をコース長に格上げし、コースの特色（専門教科やコース独自の行事など）を出せるようにコース毎で会議を持ち、改革推進委員会で発表した。その結果、以下のようにコースの特色を極めていく取り組みを実施することができた。

### ① キャリアアップコース

- ・今年度キャリアアップ独自の取り組みとして、自衛隊見学、救命救急講習受講、進路講演会、東大阪大学見学、地元企業の東洋アルミ（株）見学を実施した。今年度は、年度途中から始めたので限られたところにしか行けなかったが、来年度は、年度当初よりしっかり計画し、充実した体験や経験をさせたい。
- ・来年度は、調理や美術を学びたい生徒もこのコースで受け入れるため、調理や美術を専門的に学ぶことができる選択授業を充実させる。

### ② キャリアアシストコース

- ・オープンスクールに先駆けて、7月にキャリアアシストコース独自の説明会・発表会を実施することができた。発表した生徒は達成感と自信を持つことができた。また参加者から「生徒の成長した姿に感動した。」等の感想が寄せられた。
- ・コース独自の取り組みとして学び直しの時間を設定し、基礎学力の向上に努めた。年間成績平均90点以上で新たな奨学金対象となった生徒も2名いた。
- ・休みがちな生徒にはカウンセラーとつないだり、修学委員会にかけたりして退学者の予防に努めた。

### ③ キャリアスポーツコース

- ・今年度新設されたコースであったが、外部専用施設や外部講師と連携して試行錯誤を繰り返しながら実施することができた。実践キャリアスポーツの時間では、スケートボード（全7回）、ボウリング（全7回）、ボルタリング（全4回）、ゴルフ（全3回）、ダンス（全5回）、ダブルダッチ（全5回）、体幹・ストレッチ（全3回）、バドミントン（全4回）、スポーツ医学検定（全6回）、その他フットサルやニュースポーツを実施することができた。
- ・第一線で活躍されている講師から学べたり、校内では体験できない専門施設を利用したりして授業を実施することができたので、生徒の満足度は高い。
- ・ボウリング場やゴルフ場からは、柏高生（全生徒、保護者も含む）限定の『柏高割』を設

定してくれたり、AKAMARU スケートパーク内に学校 PR の横断幕を常時設置してもらったりして地域と連携することができた。

- ・楽しく学んでいる授業風景をInstagramやホームページにアップする予定だったが、うまく活用できなかった。来年度は積極的に配信し、中学生や保護者に広く認知してもらおう。
- ・スポーツ医学検定の難易度は高いが、授業内容を工夫し、来年度はぜひとも合格者を出していきたい。
- ・来年度の実践キャリアスポーツの授業は、1・2年生合同にしていくと共に、必要などころは習熟度別授業を展開し、生徒の満足度を高めていく。

#### ④ 調理コース

- ・3年生10人中、6名が調理・栄養関係に進学・就職した。
- ・地域の飲食店や有名ホテルにも協力いただき、インターンシップを実施することができた。またその振り返りとしてプレゼンテーションを行い、表現力を身につけることができた。
- ・てんしばのソライロキッチンでカフェ体験を実施し、接待業を学ぶことができた。
- ・生徒向けに300個のクレープを販売したり、教師向けのお弁当販売をしたり、また感謝の気持ちを伝える保護者試食会を実施することができた。
- ・柏原市民フェスティバルに参加して、マフィン・クッキーの販売をしたり、創立60周年記念フェスタで富田屋と共同で和菓子の商品開発をして販売を行うなど、地域と連携することができた。
- ・美術コースと一緒に、信太山でコース独自の校外学習を実施し、箸の装飾とピザづくりに取り組むことができた。

#### ⑤ 美術コース

- ・卒業生5名全員が進学したが、うち3名は芸術系の大学・短期大学に進学した。
- ・柏原芸術祭2023に入選者15名が出品できた。また明るい選挙ポスターに出品し、柏原市3名入選、大阪府中部ブロック3名入選、大阪府1名入選、中央審査に1名出品することができた。
- ・美術コース生2年生を中心にだんじり小屋のシャッターペイントを製作することができた。
- ・柏原市民フェスティバルに「似顔絵屋」を出店することができた。
- ・大阪芸術大学や美術系専門学校の見学会及びセミナーに参加することができた。また地元企業の「古賀印刷株式会社」の見学会を実施することができた。
- ・授業では、画像生成AIや動画・スライドの制作にも取り組むことができた。

#### ⑥ アスリートコース

- ・バドミントン部のインターハイ準優勝、ゴルフ部の全国マッチプレー選手権大会優勝、陸上部のジュニアオリンピック大会男子100m優勝など、全国大会で活躍した生徒も多かった。
- ・「クラブ生である前に柏原高校生」であることを認識させ、挨拶や言葉遣いなどの礼儀、一般的な常識を身につけるなどスポーツを通じた人間形成に力を入れた。また学校生活を優先させ、文武両道を目指した。
- ・オープンスクールで生徒による説明を行ったが、アスリート生の良い経験とコミュニケー



ション力の育成にもなった。

#### ⑦ アドバンストコース

- ・今年度より「スタサプ ENGLISH」を導入し、習熟度別に英語力向上と英検合格を目指した。また英語の早朝テストを「Monoxer」で実施した結果、テストの実施回数や生徒の勉強時間増加につながった。
- ・アントレプレナーシップ教育の一環としてリクルート社主催の「高校生 Ring AWARD2023」にアドバンストコース全員で応募し、2万5,827名の参加者のうち2年生1名がセミファイナリスト（30名）まで残ることができた。次年度もコースとして取り組みたい。
- ・コースとして検定や模試の受験にも力を入れた。漢検では、2級1名、準2級2名、3級14名の合格者を、また英検では、2級1名、準2級4名、3級4名、さらに数検では準2級3名、3級3名の合格者を出すことができた。
- ・成果としては、筑波大（体育専門学）、明治大（政治経済学部）、立命館大（経営学部）、関西大（商学部）、近畿大（経営学部）、関西外国語大（英語キャリア学部）など、多数の有名大学に進学させることができた。
- ・課題としては、アドバンストコースに在籍しているほとんどの生徒がクラブ生であり、各クラブの事情に合わせて担任や教科担任が個別に補習を行っていることがあげられる。

### 3. 生徒募集活動の推進と効果的な広報活動

#### (1)入試広報部の改革

- ・校務分掌を改訂し、多くの教職員が入試広報部に関わるようにした。その結果、全職員の生徒募集への意識を高めることができた。
- ・広報部門と生徒募集（渉外）部門にチーム分けをして、それぞれの役割・責任をはっきりさせた。渉外では、広報への意識を高めることができた。

#### (2)入試広報活動の工夫

- ・学校訪問や塾訪問では、行事や生徒の様子がよくわかるように、別紙資料やスライド、動画等を作成し活用した。
- ・八尾市・柏原市・藤井寺市等は、地元中学校としてオープンスクールの案内を3年生男子生徒全員に配ってもらった。また60周年記念フェスタのチラシは、柏原市の小・中学校の全校児童・生徒に配ってもらった。
- ・今年度は塾訪問にも重点を置き、昨年度までできなかったデータ化を進めた。
- ・オープンスクールでは、在校生の様子がよくわかるように、司会進行やコースの説明も生徒中心に切り替えた。アンケート結果では、「先生と生徒の温かい関係がよくわかり、よかった。」「子どもたちの成長している姿を見て感動した。」等、例年に比べ中学生や保護者の評価が大幅に上がった。
- ・ミライコンパスを活用して、オープンスクールに参加してくれた生徒に再度メッセージを

送った。その効果もあって、オープンスクールや入試説明会等の参加者は前年度と比べ、トータルで160名ほど増えた。

### (3) ホームページ・SNS 中心の広報活動へ

- ・リニューアルしたホームページを中心に、動画を多く取り入れ、学校生活やクラブの様子、楽しさが伝わりやすいようにしたが、更なる工夫が必要。
- ・公式の Instagram を設定したが、フォロワー数は3月30日時点で760人にとどまっている。クラブの Instagram では、同じ時点でバドミントン部が1万人、サッカー部が1095人、ゴルフ部493人、陸上部419人などフォロワーが多くいるので、クラブと連携して、来年度はフォロワー数1500人を目指したい。
- ・来年度は柏原高校公式LINEを設営し、メタバースを活用したオープンスクールや広報活動を行う予定である。

## 4. 生活指導の徹底と生徒会活動の充実

### (1) 問題行動の未然防止、迅速な対応と粘り強い指導

- ・日常から挨拶、身だしなみ、遅刻等の「凡事徹底」を図ってきたが、更なる徹底が必要である。

### (2) 退学・転学

- ・問題事象への迅速な対応と外部関係機関との連携、保護者への報告・連絡等、家庭と連携した指導、生徒理解に基づいた厳しくも温かみのある指導を目指した。スクールカウンセラーや部活動との連携をさらに強化していきたい。
- ・転入生が増えてきているので、転入後安心して学校生活を送れるように丁寧にフォローしていく。
- ・不登校や欠席の多い生徒には、修学委員会を開いて手立てを検討したが、さらに早期から対応していく必要がある。

### (3) 生徒会活動の充実

- ・「わくわくモーニング」、「カシゼリヤ」、「おにぎりフォト」など今年度新たな取り組みを実施することができた。カシゼリヤでは国際クラスと交流することもできた。
- ・月1回程度、生徒会役員のミーティングを行い意見交流ができた。
- ・柏高祭に全員で一つの作品「雨にも負けず」を作り上げることができた。また1日目にビンゴ大会やペンライト、サイン抽選会、2日目には野外ステージなど新たな取り組みができた。
- ・能登半島地震の後、すぐに募金活動を行うことができた。
- ・地域のクリーンキャンペーンに参加することができた。
- ・今年度も継続してエコキャップ運動に参加することができた。
- ・来年度は「柏プロジェクト」（柏原高校生徒会応援チーム）を募集し、広報活動を中心に協力していく。

## 5. 国際クラスの充実

- (1)国際交流センターとの連携を強化し、留学生が安定した学校生活・寮生活ができるようにした。
  - ・関係者で定期的に現場会議を実施して、情報交換や日々の指導方針を決めていくことができた。
  - ・風呂やトイレの改善・改修等寮の環境整備ができた。
  - ・学年や生徒指導と連携して日々の指導を丁寧に行うことができた。
- (2)有名大学進学に向けた進路指導
  - ・進路先が決定する時期が遅くなったが、最終的には中国の浙江大学を受験予定（6月）の生徒を除いて全員進路先を決めることができた。
  - ・主な合格先は、近畿大学1名、龍谷大学4名、桃山学院大学6名、東海大学1名、東大阪大学3名 等。
  - ・大学受験に日本語能力試験や留学生試験を活用することが多いため、日本人と受験方法が異なり、進路指導部との連携が難しい。国際交流センターや敬愛高校と連携を取り、留学生の進路指導の基準となるデータを作っていくことが必要。
- (3)日本人と留学生の相互交流を基盤とした多文化共生教育の推進
  - ・アドバンストコースの日本人と数学・英語・社会・保健体育・家庭科等で合同授業を実施することができた。しかし日本語の授業を優先して増やすと合同授業が組みにくいという課題がある。
  - ・カシゼリヤで留学生を優先する日を決めて、日本人と交流することができた。

## 6. 進路指導の充実と進学実績の向上

- (1) 進路行事について
  - 就職勝道場、進路ガイダンス、講演会（労働条件、金銭教育、租税教室、着こなし講座）、進路ガイダンス、進路別見学会、体験授業、就職体験会、講演会、ポスターセッション、適性診断、体験授業、講演会
- (2) 就職について
  - ・今年度も学校紹介の就職においては、大手の企業から中小企業まで多様な就職状況で、内定率100%を継続することができた。
  - ・就職32名（日本郵便、トヨタ自動車、シェラトン都ホテル大阪、山崎製パン、ALSOK 近畿、ハート封筒、きんでん、佐川急便 等）
- (3) 進学について

- 大学進学 90 名（筑波大、明治大、立命館大、関西大、近畿大 2、京都産業大、龍谷大 7、関西外大、追手門学院大 3、桃山学院大 9、神戸学院大、東大阪大 5 等）
- 短期大学進学 3 名（東大阪大短期大学部 2、奈良芸術短期大）
- 専門学校進学 31 名（森ノ宮医療学園、大阪医療技術、大原簿記法律 7、大阪観光 2、辻学園調理・製菓、大阪リゾーツスポーツ 等）

### 3 財務の概要

別添 令和 5 年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照